

ナレッジマネジメント実践論で学んだこと

所属 生物産業創成専攻

学年・氏名 博士2年 徐 司

(株) おおやま夢工房

生物産業キャリアパス設計教育プログラムの実践フェーズの講義であるナレッジマネジメント実践論は、講義と実践の2つの部分によって構成される。講義では散逸構造理論およびナレッジマネジメントの話を行いました。散逸構造理論は難しく、主に印象に残ったのは、既に自己組織化によって形成した組織に刺激を与えたら、自己組織化が再び引き起こされ、新たな組織が形成する。ナレッジマネジメントの理論では、知識経済においては知識だけが新たな価値の源泉として「唯一意味のある資源」と指摘され、組織としての競争力を劣化させないためには、常に組織内で新たな知の創造を繰り返していくことが必要なのであるということを知った。そして、既存の知識を資源として新たな知識を創造し、それを刺激として組織に与え、変化を求めるといった目的を持って、大山町を支えた夢工房に訪問した。

訪問先である夢工房は、梅製品を中心とした生産・販売活動を行い、これまでに地元の経済を成功に支えてきたが、責任者の話によると、過疎化・少子化などによる労働力の不足が今後の組織維持・発展の問題となっている。それに対して、学生たちは3つのグループに分け、情報収集、問題発掘、そして問題解決への提案といったプロセスで、ナレッジマネジメントの実践を行った。

提案を作成する過程で、既存知識だけで新たな知識を生み出すことの大変さを感じた。そこで重要なのは、情報の徹底的収集、集めた資料に対する分析および整理、そして新たな提案へ繋がるための論理的な思考であった。最終的に、私たちは幼稚的だと考えていた提案に対して、夢工房側は真剣に対応していただき、採用しようといったフィードバックされた。

まったくビジネス経験のない学生である私たちは真面目にナレッジマネジメントを行ったら、これほどの成果を挙げられることに驚いた。そして、ナレッジマネジメントは現代社会においての重要性もよく感じた。また、研究を行う際にも、同じようなプロセスで情報収集と情報処理を行っている部分があることに気づき、今回の実践を経験した後、今後の研究において、目標と実行方法がより明確になったような気がします。素晴らしい体験を提供していただいた支援室の皆さんおよび夢工房の皆さんに誠に感謝します。